

【1】全体評価

企業局の平成26年度から平成29年度の収支の平均値は、第3期中期経営計画（平成26年度から平成29年度）に対し、収入面では電気事業は2,282百万円、工業用水道事業は2,275百万円であり、費用面では電気事業は1,893百万円、工業用水道事業は1,661百万円である。よって純利益は電気事業が389百万円となり工業用水道事業は614百万円となっている。平成29年度末の資本は、電気事業が15,767百万円であり工業用水道事業は17,400百万円となっている。純利益及び資本とも立派な成果を上げた状況である。

企業局は、平成26年度より地方公営企業の会計基準の見直し（借入資本金を資本金から削除する等）を行い、企業会計に準じた計算書類を作成し経営実態を明らかにしている。施策面では、第一に、平成29年10月に将来の展望を見据えた10年間の長期経営計画を作成している。これにより企業局のあるべき姿（大分の水を生かし、地域を支える。）の現状と将来の課題・展望が整理された。第二に、全体の施設の修繕及び点検状況等について見える化のマップを作成したことで事業ごとに実施した設備投資等の状況を明らかにすることができている。

電気事業では、第一に、再生可能エネルギーとしての太陽光発電を導入し安定した収益を上げている。第二に、今後50年間を見据えた大野川発電所の平成32年度末の完工（売電単価24円/kWh・20年間）、別府発電所の平成36年度末の完工や他の発電所等のリニューアル等を目指して更なる取組が今後期待される。第三に、平成37年度末に予定される九州電力との契約満了後の関わりや電力自由化に伴う電力の一般競争入札に移行した時の収益安定化を図る方策を十二分に検討する必要がある。

工業用水道事業では、第一に、平成29年4月に当初の予算を13億円圧縮し約70億円で給水ネットワークを実現している。これにより今までできなかったネットワークの隧道点検や汚泥対策・補修が可能となっている。第二に、計画的な津波対策等の耐震工事、全ての施設の老朽化対策や管路の補修等を進めることが期待される。

最後に、平成30年7月の西日本豪雨を教訓とし、洪水時のダム水の放流シミュレーションや蓄積されたダムへの流入土砂の軽減策について研究・準備しておくことが肝要と思える。

上述したとおり企業局の第3期中期経営計画の取組は、期待された以上の成果をほとんど全ての面で達成している。今後の更なる自助努力をお願いするものである。

【2】個別評価

大項目	小項目	内部評価					外部評価					コメント
		H26	H27	H28	H29	全体	H26	H27	H28	H29	全体	
												「S」：項目全てがⅡ以上で、かつⅠが1項目以上 「A」：Ⅲが1項目以内 「B」：Ⅲが2項目以上 「I」：良好な実施状況にある 「II」：概ね年度計画通り実施している 「III」：計画までの実施ができなかった
1 「安全・安心」の施設管理							B	A	A	A	A	
(1) 電気事業												
	①地震対策の計画的実施	(P1)	II	II	I	II	II	II	I	II	II	
	②発電所リニューアルに向けた準備	(P3)	I	I	II	II	II	I	I	II	II	
	③発電所のオーバーホール工事	(P6)	II	II	II	II	II	II	II	II	II	
	④その他、経年施設の適切な修繕・改良工事	(P7)	III	III	III	III	III	III	III	III	III	
(2) 工業用水道事業												
	①地震（津波）対策の計画的実施	(P9)	III	II	II	I	I	III	II	II	I	I
	②給水ネットワーク再構築事業の完成	(P12)	I	I	I	I	I	I	I	I	I	
	③その他、経年施設の適切な修繕・改良工事	(P15)		II	II		II		II	II		II
(3) 共通												
	①点検基準の見直し	(P16)	III	II	II	I	I	III	II	II	I	I
	②人材の育成（技術の継承） (i) 職員研修の充実	(P18)	I	II	I	I	I	I	II	II	I	I
	②人材の育成（技術の継承） (ii) 経営的視点を持つ技術職員の育成	(P20)	II	II	I	II	II	II	II	II	I	II

	内部評価					内部評価					コメント	
	H26	H27	H28	H29	全体	H26	H27	H28	H29	全体		
2 「顧客本位」の取組						A	S	S	S	S		
(1) 電気事業												
①安定した電力の供給	(P23)	Ⅲ	I	Ⅱ	I	I	Ⅲ	I	Ⅱ	I	I	
②九州電力との定期的意見交換	(P24)	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	
(2) 工業用水道事業												
①安定した工業用水の供給	(P25)	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	
②さらなる濁水対策の調査・研究	(P28)	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	
③ユーザー懇談会の充実とユーザーへの定期訪問	(P29)	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	I	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	I	I	I	
④商工労働部と連携した新規顧客開拓	(P32)	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	

	内部評価					内部評価					コメント
	H26	H27	H28	H29	全体	H26	H27	H28	H29	全体	
3 県政（地域）への「貢献」						A	A	A	S	S	
(3) 共通											
①一般会計への繰り出し	(P35)	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	I	I	よくやられている。
②環境保全活動等への助成・検討	(P36)	I	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	

	内部評価					内部評価					コメント	
	H26	H27	H28	H29	全体	H26	H27	H28	H29	全体		
IV 経営基盤確立の推進						A	S	S	A	S		
2 アセットマネジメントによる計画的施設補修と費用の平準化												
	(P41)	I	I	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	I	I	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	
3 コストダウン推進委員会による経費削減等に向けた検証												
	(P42)	I	I	I	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	I	I	Ⅲ	Ⅱ	
4 既存施設の活用等による再生可能エネルギー拡大の取組												
	(P46)	Ⅱ	Ⅱ	I	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	I	Ⅱ	Ⅱ	
5 計画の進捗管理と自己評価												
	(P47)	Ⅲ	I	I	I	I	Ⅱ	I	I	I	I	

※ページ番号は別冊「大分県企業局第3期中期経営計画 実施結果（平成26年度～29年度）」のページに対応